

一般社団法人日本医真菌学会 2023 年度第 3 回理事会議事録

日時：2024 年 7 月 9 日（火）18：00～20：00

場所：(株)春恒社会議室+オンライン開催（Zoom）

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 階

出席：澁谷和俊（理事長）

泉川公一、杉田隆、原田和俊、福田知雄、榎村浩一、宮崎義継、矢口貴志、山岸由佳 以上理事 9 名

長尾美紀 以上監事 1 名

阿部雅広、掛屋 弘、佐藤友隆、若山 恵 以上幹事 4 名

欠席：

金子健彦、神田善伸（理事）小川祐美（監事）、森 毅彦（幹事）

議題：

（報告事項）

1. メール審議結果報告（澁谷理事長）

2023 年度第 5 回～6 回のメール審議の結果を確認した。

2. 会員異動報告

宮崎総務理事より、2024 年 5 月 31 日時点の会員数の報告があった。合計で 916 名であり、前回から変動はなかった。

3. 各種委員会報告・議事

1) 編集委員会（宮崎理事）

①2023 年 9 月～2024 年 6 月の投稿論文数は、MMJ と真菌誌を合わせて 36 編であり、昨年度と同程度である。

②2024 年日本医真菌学会優秀論文賞について、下記 2 論文を選出した。

(1) Authors: Yuki Miyajima, Kentaro Nagaoka, Yusuke Takegoshi, Makito Kaneda, Yushi Murai, Kou Kimoto, Takayuki Kawamura, Akitoshi Ueno, Hitoshi Kawasuji, Koyomi Kawago, Yasutaka Fukui, Ippei Sakamaki, Yoshihiro Yamamoto

Title: Comparative Study of Three Commercial Blood (1→3)- $\beta$ -D-glucan Detection Reagents for Invasive Mycosis

(Medical Mycology Journal Vol. 64 No. 1 に収録)

(2) Authors: Tomoe Ichikawa, Misato Okumura, Tomoya Mizumura, Minami Hayashi, Momoe Watanabe, Reiko Ikeda, Yoshio Ishibashi

Title: Interaction of Host Proteins with Cell Surface Molecules of the Pathogenic Yeast *Trichosporon asahii*

(Medical Mycology Journal Vol. 64 No. 2 に収録)

③第 67 回総会におけるシンポジウムの演者、および学術賞、次世代研究者賞、特別功労賞受賞者への執筆依頼を行い、18 名より寄稿があった。

④査読結果登録の際、現在の判定項目「訂正後受理（再査読なし）/Minor revision: re-review not required」に加えて、「訂正後受理（要再査読）/Minor revision: re-review required」を追加することとなった。

⑤現状セクションエディタの負荷が大きいため、皮膚科系 佐藤友隆委員、内科系 渡辺哲委員を追加することとなった。

⑥複数の企業より業績悪化を理由に、広告掲載が中止となった。来期は編集委員の協力のもと、新規掲載企業の獲得を目指している。

⑦昨年よりインパクトファクター（IF）が付与されることとなり、2024年6月に発表された数値が昨年より向上していた。IF向上のため、MMJへの掲載論文数とその論文の引用数が重要であることを確認した。また、榎村理事より、会員への周知のため、IFをホームページで公開することが提案され、最新の数字を公開することとなった。

⑧IFが付与されたことを踏まえ、投稿規定改定案について審議事項22にて議論する。

## 2) 用語委員会（矢口理事）

ICD-11について、細菌・真菌領域の用語の和訳案確認依頼があり、委員会で検討し意見を提出したことが報告された。

## 3) 将来計画委員会（神田理事：欠席）

欠席の神田理事に代わり澁谷理事長より、引き続き学会、講演会等での入会を呼びかけており、「希少深在性真菌症の診断・治療ガイドライン」を自治医科大学のFacebook、Instagram等で紹介していることが報告された。

## 4) ガイドライン検討委員会（泉川理事）

### ①希少深在性真菌症の診断・治療ガイドライン作成委員会（掛屋幹事）

6月25日に発刊された旨、報告があった。

### ②アスペルギルス症のガイドライン改訂版（仮称）作成委員会

泉川理事より、神田理事とともにコアメンバー、作成委員を選出して作成を進める予定であることが報告された。ガイドライン作成の委員会開催にあたっての審議については後述する。

## 5) 支部会・関連学会委員会（泉川理事）

支部会、関連学会の開催状況と開催予定について説明があった。関西真菌懇話会は企業共催で開催されており、これまで世話人の先生より委員会に報告がなかったが、重要な支部会の情報であることから、過去の開催分までさかのぼってホームページに掲載したことが報告された。

## 6) 疫学調査委員会（福田理事）

次回の皮膚真菌症疫学調査は2026年に行う予定であり、今年から協力施設の選定を開始し、2025年に各施設の倫理審査等を予定していることが報告された。

## 7) 教育委員会（杉田理事）

第11回皮膚真菌症指導者講習会を開催することが報告された。また、第36回日本臨床微生物学会総会・学術総会（2025年1月24～26日開催）との合同シンポジウムが開催予定である。

## 8) 広報委員会（榎村理事）

報告事項なし。

## 9) 専門医・認定師委員会（原田理事）

審議事項16で議論した。

## 10) 規約検討委員会（金子理事：欠席）

報告事項なし。

## 11) 倫理委員会（長尾監事）

報告事項なし。

## 12) 利益相反委員会（金子理事：欠席）

報告事項なし。

13) バイオセーフティ委員会（阿部幹事）

報告事項なし。

14) COVID-19 合併真菌症検討委員会（澁谷理事長）

日本医学会連合より受託した COVID-19 合併真菌症の政策研究について、分担研究者である泉川理事、掛屋幹事、時松代議員とともに協議を行ったことが報告された。また、1月に市民公開講座が開催され、日本医学会連合高橋班を代表し、高橋雅英先生が発表を行っている。

4. 第 67 回総会報告（福田理事）

第 67 回総会の収支報告があり、収支がほぼ同額の決算となったことが報告された。

5. 第 68 回総会、第 69 回総会、第 70 回総会準備状況報告

1) 第 68 回総会（杉田理事）

APSM 同時開催とし、2024 年 11 月 6 日（水）～9 日（土）に、国立京都国際会館にて開催予定である。概ね、前半を APSM、後半を JSMM として開催するが、7 日（木）は午前に APSM の理事会、午後に本学会の理事会等を行う予定である。

2) 第 69 回総会（山岸理事）

2025 年 10 月 3 日（金）～4 日（土）に、高知県立県民文化ホールにて開催予定である。

3) 第 70 回総会（楨村理事）

2026 年 11 月 21 日（土）～22 日（日）に東京都八王子市内にて開催予定である。

6. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

8 月に ISHAM Asia が開催されることが報告された。

7. ICD 制度協議会報告（佐藤幹事）

第 68 回総会にて ICD 講習会を開催することが報告された。

8. 内保連報告（森幹事：欠席）

報告事項なし。

9. 日本医学会・医学会連合報告（若山幹事）

2 月 21 日に日本医学会定例評議員会が開催され、2027 年に第 32 回の日本医学会総会が大阪で開催されること、また新会長の選出などの報告があった。

10. 日本医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関する報告（小川監事：欠席）

報告事項なし。

11. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

報告事項はなく、秋に理事会が予定されている。

12. 代議員選挙および理事長推薦結果報告（澁谷理事長）

代議員選挙および理事長推薦により、79 名が次期代議員に選出され、理事長選挙の結果、9 名が次期理事に選出されたことが報告された。

以下次期代議員 79 名

基礎領域	臨床領域	
安達 禎之	足立 真	時松 一成
阿部 雅広	天谷 雅行	徳久 弓恵
MOHAMED MAHDI ALSHAHNI	荒岡 秀樹	戸所 大輔
	五十棲 健	戸根 一哉
	石崎 純子	長尾 美紀

石橋 健一	泉川 公一	中村 茂樹
市川 智恵	小川 祐美	野口 博光
梅山 隆	加倉井 真樹	畑 康樹
金子 健彦	掛屋 弘	原田 和俊
加納 壘	神崎 美玲	比留間 淳一郎
木村 雅友	神田 善伸	福田 知雄
倉門 早苗	菊池 賢	福山 國太郎
古賀 裕康	北見 由季	三嶋 廣繁
佐藤 一朗	木村 有太子	光武 耕太郎
清水 公德	木村 俊一	宮崎 泰可
杉田 隆	串間 尚子	宮崎 義継
鈴木 裕子	齋藤 磨美	迎 寛
知花 博治	佐藤 俊樹	森 毅彦
張 音実	佐藤 友隆	山岸 由佳
栃木 直文	下山 陽也	山田 七子
豊留 孝仁	須賀 康	山本 善裕
中村 遊香	高園 貴弘	吉田 耕一郎
南條 育子	瀧本 玲子	渡辺 哲
萩原 大祐	竹田 公信	
槇村 浩一	竹中 基	
松本 靖彦	田代 将人	
矢口 貴志	多田 弥生	
山田 剛	田邊 洋	
若山 恵	常深 祐一郎	

#### 以下理事 9 名

基礎領域：金子 健彦、杉田 隆、槇村 浩一、矢口 貴志

臨床領域：泉川 公一、原田 和俊、福田 知雄、宮崎 義継、山岸 由佳

#### 13. その他

- 1) 「抗微生物薬適正使用支援プログラム実践のためのガイドンス」改訂版発行の承認について（澁谷理事長）

2017 年に関連 8 学会が合同で作成・発行したガイドンスが改訂されることとなり、本学会でも改訂を承認し、委員を選出したことが報告された。

- 2) 沢井製薬株式会社 フルコナゾール静注液販売中止について（澁谷理事長）

沢井製薬株式会社よりフルコナゾール静注液の発売中止について本学会に依頼があり、面談を行った結果、販売中止を承認した旨、報告があった。

- 3) 第 8 回研究倫理教育研修会の報告（泉川理事）

日本医学会連合主催の研究倫理教育研修会が開催されたことが泉川理事より報告され、具体的な内容については、後日メールで配信することとした。

4) 第 68 回総会会期中の会議日程について（事務局）

第 68 回総会会期中の理事会、代議員総会等については、2024 年 11 月 7 日（木）に下記の通り開催することが報告された。

13：00～13：30 新理事内定者打合せ会 出席者：選出理事および現理事長

13：30～15：30 2023 年度第 4 回理事会 出席者：現役員

16：00～17：00 2024 年度代議員総会 出席者：現代議員

17：00～17：30 2024 年度第 1 回理事会（新理事会） 出席者：新役員

5) 富士製薬工業株式会社 ハリゾンシロップ 100mg/mL 販売中止について（澁谷理事長）

富士製薬工業株式会社より、ハリゾンシロップ 100mg/mL の販売中止について公表されたことが報告された。

6) ガイドラインの PDF 利用申請書について（澁谷理事長）

ガイドラインの作成委員より、PDF ファイルの利用申請があり、申請書式を準備したことが報告された。申請を許可するのは原則作成委員とすることを確認した。

7) 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会における加盟学会連携フォーラムについて（澁谷理事長）

第 71 回日本臨床検査医学会学術集会にて、本学会と日本感染症学会の連携のもと、日本医学会連合加盟学会連携フォーラムが開催予定であることが報告された。

（審議事項）

14. 2023 年度事業報告案・2024 年度事業計画案（宮崎総務理事）

2023 年度事業報告案および 2024 年度事業計画案が提示された。異論はなく承認された。

15. 2023 年度決算見込みおよび 2024 年度予算案（山岸財務理事）

2023 年度決算見込みについて、収入の部では、年会費納入率は約 89%であり、予算を下回った。また、希少深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの発刊が遅れ、6 月末となったことから、販売収入および転載許諾料が予算を大幅に下回った。一方、佐藤製薬株式会社と公益財団法人発酵研究所より合計 550 万円の助成金を獲得することができた。また、昨年度と同様に、日本医学会連合の受託研究費が収支差額 0 円で収支に加えられている。支出の部では、会誌刊行費はページ数の減少により昨年度を下回っているが、ガイドライン印刷費として、予算を少し上回った約 305 万円を計上した。一方、Web 会議が中心であったことから、会議費・旅費は予算を下回っている。以上により、2023 年度決算見込みは、約 400 万円を損金として処理する見込みとなっている。続いて貸借対照表について説明があり、発酵研究所の助成金は、研究教育等積立金として、他の積立金と同様に定期預金に積み立てることとした。

2024 年度予算案については、概ね例年通り計上しているが、収入では 2023 年度よりガイドライン収入がずれ込むことを見込んでいる。また、寄付金は前年に引き続き 50 万円の予測である。支出では、会議の現地開催が増えることを見込み、旅費、会議費を少し増額している。また、前年は研究教育助成金の支出がなかったが、2024 年度は研究教育等積立金を取り崩し、APSMM への助成金として支出を予定している。これにより、約 9 万円の余剰金を事業収益として予測した。

以上について審議したところ、一同異論なく承認された。

16. 専門医認定の件（原田理事）

2024 年度専門医審査では、新規 1 名、更新 14 名、留保 1 名を合格としたことが報告され、異論なく承認された。

新規（1 名）

戸所 大輔（群馬大学医学部附属病院眼科）

更新（8名）

泉川 公一、金子 健彦、小林 美和、齋藤 磨美、田邊 洋、中村 茂樹、槇村 浩一、若山 恵

更新 65 歳以上（6名）

角谷 廣幸、北島 康雄、庄司 昭伸、田中 壯一、比留間 政太郎、松田 哲男

留保（1名）

長谷 翠

#### 17. 学会賞・特別功労賞選考の件（神田理事：欠席）

神田理事に代わり澁谷理事長より、委員会で審議した結果、下記の通り受賞資格ありと認めたことが報告され、全員の受賞を承認した。

（学会賞）

候補者：掛屋 弘（大阪公立大学大学院 医学研究科 臨床感染制御学 教授）

受賞題目：希少深在性真菌症の診断と制御に関する研究

候補者：福田 知雄（埼玉医科大学総合医療センター 皮膚科 教授）

受賞題目：皮膚真菌症の疫学調査など皮膚真菌症領域における貢献

（特別功労賞）

候補者：久米 光（千葉大学真菌医学研究センター 臨床感染症分野・特別研究協力員）

受賞題目：内臓真菌症の病理～特に日本病理剖検輯報による疫学的研究～

#### 18. 学術賞・次世代研究者賞選考の件（杉田理事）

委員会で審議した結果、下記の通り受賞資格ありと認めたことが報告され、全員の受賞を承認した。

（学術賞）

候補者：田代 将人（長崎大学 臨床感染症学分野）

受賞題目：本邦におけるムーコル症の全国疫学調査、治療分析、およびアムホテリシン B リポソーム製剤投与量の予後的関連性の解析」

（次世代研究者賞）

候補者：馬嶋 秀考（千葉大学 真菌医学研究センター）

受賞題目：アゾール耐性アスペルギルス感染症克服に向けたスタチンの抗真菌作用の応用—カイク感染モデルを用いた in vivo におけるアゾール薬との併用効果の検証—

#### 19. 若手研究者奨学金選考の件（宮崎理事）

今年度の若手研究者奨学金は下記の3名より申請があった。

馬嶋 秀考（千葉大学真菌医学研究センター）

比留間 淳一郎（東京医科大学病院 皮膚科）

阿部 雅広（国立感染症研究所 真菌部）

委員審査にて3名の順位付けを行い、選出方法として、①得点に応じた金額配分とする ②3名に均等に配分する ③上位1名または2名に配分する の3つの方法を検討した。

まず、①～③から出席役員による挙手で選出方法を決定することが承認されたため、挙手による採決を行った結果、②の3名に均等に配分することが承認された。

#### 20. 名誉会員および功労会員推薦の件（澁谷理事長）

細則に従い、下記の通り名誉会員1名、功労会員6名が推薦され、一同異論なく承認された。

名誉会員：坪井 良治

功労会員：池田 志孝、小林 裕美、澁谷 和俊、高島 昌子、前崎 繁文、松田 哲男

#### 21. 第 71 回総会会長選出の件（澁谷理事長）

現時点で推薦者がいなかったため、次回理事会まで継続審議とした。

#### 22. 投稿規定改定の件（宮崎理事）

編集委員会で投稿規定改定および略号表を作成し、前回理事会および事前にメールで回覧した後、意見があった箇所の修正を行った。これについて審議した結果、何か問題が生じた際は迅速に審議し、改めることができることを条件とし、承認された。9 月以降に受け付ける論文に適用することとし、ホームページにその旨を明記することとした。

#### 23. 電子帳簿保存法に基づく事務処理規定について（事務局）

2024 年より施行された電子帳簿保存法に基づき、事務処理規定を定める必要があるため、規定の案が提示された。前回理事会で指摘があった補足説明の追加を確認し、異論なく承認された。

#### 24. その他

##### 1) 日本医学会・医学会連合等の会議への役員出席交通費について（澁谷理事長）

日本医学会・医学会連合等の会議に役員が出席する際の交通費は、旅費・宿泊費用に関する規約に基づき、実費支給することが確認された。

なお、宿泊費は「1 泊につき 15,000 円を支給」となっていたが、昨今の状況から、「1 泊につき 20,000 円を上限として実費支給」とすることへの変更が承認された。

##### 2) 医真菌学会地方会等プログラム/抄録集の中央化・アーカイブ化について（澁谷理事長、泉川理事、楨村理事）

現在、支部会・関連学会のプログラムまたは抄録集はホームページにて一部のみ掲載されているが、できるだけアーカイブとして掲載されていることが望ましいと意見があり、支部会・関連学会委員会より各支部に情報提供を求めることとした。

##### 3) 希少深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの病理写真掲載費の予算計上について（澁谷理事長）

ガイドライン発行に際し、病理画像を大きく掲載したいとの希望があり、「病理像のリンク」として PDF ファイルを作成し、これを閲覧できる QR コードを冊子内に掲載した。掲載費として 15,000 円の費用がかかるが、ガイドラインの付録としての扱いであるため、ガイドライン印刷費に計上することが提案され、承認された。

##### 4) APSMM との合同開催に伴う覚書について（澁谷理事長、杉田理事）

第 68 回総会と APSMM の合同開催に伴い、学会本体と APSMM 会長である杉田理事との間で収支の配分について覚書を交わすことについて会計士より指示があり、覚書の案が提示された。参加費収入の按分に関しては、比率は関係者に一任することに一同同意し、継続審議とした。

##### 5) 第 68 回日本医真菌学会総会・学術集会時の事務局受付について（澁谷理事長）

第 68 回総会は例年とは会期が異なるが、入会、年会費受付およびガイドライン販売等の事務局受付は 8 日、9 日に設置することが承認された。

##### 6) 皮膚真菌症診療ガイドラインの改訂について

福田理事より、皮膚真菌症診療ガイドラインの改訂委員会が福田理事、原田理事を委員長、副委員長として立ち上げられ、2024 年 6 月 9 日、日本皮膚科学会総会の会場にてキックオフミーティングが開催されたことが報告された。

1) アスペルギルス症のガイドライン改訂版（仮称）作成委員会

泉川理事よりガイドライン作成にあたり、議論を迅速かつ円滑に進めるため、必要に応じて委員会を対面で開催したいと要望があった。澁谷理事長より、従来のガイドラインを前例に収支に多少の余裕が見込まれることが説明され、審議の結果、必要な場合は対面の会議を開催することが承認された。

以上

2024年7月9日

議事録作成人 澁谷和俊

議事録署名人 長尾美紀